

武内 竜一 [武内竜一賞]

奥天 昌樹 (GALLERY HAYASHI + ART BRIDGE)

風澤 俊一 [風澤俊一賞]

岡本 光博 (eitoeiko)

傍嶋 賢 [SOBASUTA賞]

オオタ キヨオ (Gallery TK2)

シンプルな形態の繰り返しがとても魅力的です。今後のご活躍期待しています。

熊谷 直人 (CAVE-AYUMIGALLERY)

綺麗な色使いがとても魅力的です。藝大同級生としてご活躍期待しています。

新埜 康平 (GALLERY AND LINKS 81)

グラフィティのカルチャーを日本画に落とし込む作品がとても良かったです。今後のご活躍期待しています。

堀内 勉 [ソーシャルイノベーション賞]

島田 怜奈 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

伴野 崇 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

小西 紋野 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

本橋 弓絃 [本橋弓絃賞]

丹羽 一尊 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

構築的な形と、天目茶碗を思わせる深みのある肌合いに思わず目を奪われました。水を張った時の静謐な空気感に触発されます。紫の蘭を生けてみたいと思います。

五嶋 穂波 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

蓮の葉を想起させるフォルムと、たおやかな肌合いを持つ器に心惹かれました。野の花を一輪いけて見たいと思います。

木越 純 [木越純賞]

三浦 光雅 (DMOARTS)

以前Bunkamuraの展覧会でお話をしたことがあり話が弾んだのですが、その時は作品購入には至らず、ここ3331で再会。無意識を意識しながら強い意志を持って創作している感じがして、鮮やかな色彩と光沢のある質感が面白いと思います。

吉田 桃子 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)

武蔵美での修士論文執筆のため取材させていただいたMONEXの2019年AIO受賞者。以来ずっと気になっていたアーティストさんの作品です。3331で初めてお目にかかり親しくお話をさせていただき、あの時の疑問も解けました。アートは出会いです。

木村 博行 [木村博行賞]

JooLee Kang

細い線から生まれる見事な描写。生々しさとも云える美しい洞察力に感銘しました。大事に飾らせていただきます。

木村 淳代 [ALSA大賞]

わたなべめい (羊画廊)

昔から女の子を描いた作品に惹かれるのですが、今回購入させていただいた作品は、一目見て高校生の娘にそっくりなことに驚いて、即決しました。

他の作品の子達も、可愛さとグロテスクさが感性豊かなこの世代の内面を反映しているようでとても魅力的でした。

娘が大人になった時、作品がどう見えるのか楽しみです。

高嶋 秀男 (ギャラリー Q)

顔のないシリーズに時代性を感じています。

SNSでは沢山の顔が出ていて一方で、その姿は公開用に作られたスタイルだったり、そもそも加工されたものだったり実感が掴めません。そして今、コロナ禍でのマスク生活は、実生活でも顔がなくなってしまっています。それでも私たちは確かに存在して、愛する家族に満たされていることを日々実感していたいと思い購入させていただきました。中でもうさぎに惹かれたのは、手足の絶妙な丸さと角度になんとも言えない癒しを感じたからです。次の作品も楽しみにしております。

野口 明嗣 [野口明嗣賞]

遠藤 茜 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

柔らかなクッションをイメージすると硬く、重い木彫作品かと思ってしまうと軽い。

遠藤さんの作る作品はクッションをそのまま乾漆技法で閉じ込めた、不思議で楽しい作品でした。乾漆の新しい表現を見たようで、これからの活躍を期待しています。

野口 玲一 [01賞]

ムラカミ ナナミ (五美術大学交流展)

松本 玲子

林 曉甫 [林 曉甫賞]

森田 明日香 (秋田公立美術大学)

スタイリッシュな作品のイメージと素材のギャップがとてもおもしろく、身近なものにはまだまだいろいろな発見があるのだなと気づかせてくれました。すべてプログラミングで作られているような作品が実はそうではないというところに、僕自身が抱いていたデジタルデバイスを使った展示作品のイメージが更新されました。

金子 未弥

屋外展示作品のドローイングということで、それが実際に現地ではどんな表情の作品に仕上がるのか楽しみです。スケール、空間とのバランス、素材の質感に驚きたい。ドローイング一枚があればこれと想像が膨らみました。

土谷 紘加

先日4歳の小さな友人からアイロンビーズで作ったお花をもらったり、視察で訪れたとある施設では子どもがアイロンビーズを使い様々な形状のものを作っていたりと、アイロンビーズはこのところ身近に感じていた素材でした。それを既存の形式に囚われずそれを逸脱する仕上がりでひとつの作品として完成させ、また圧倒的な量の作品を制作していることはただただ感服しました。質量ともにますます高めていってほしいと思いました。